

3学年PTA用「進路資料」

はじめに

進路について、ご家庭ごとにいろいろな考えをお持ちだと思います。場合によっては、ご家族の中でも意見が分かれることもあると思います。また、進路は、子ども(お子様)をとりまくさまざまな現実、例えば、学習面での実力や経済的な状況などによっても、大きく左右されると思います。

そのような中で、これまでの義務教育という枠のなかで育てられてきた子ども達が、初めて自分の力で進路選択、進路希望の実現に臨みます。「親」として、「教師」として、「人生の先輩」として、適切な助言や援助を与え、子ども達をバックアップしていきたいものです。進路を考えるにあたっての「考え方」や「注意点」を、簡単にですがまとめて掲載しました。参考にいただければ幸いです。

進路選択にあたって

● 将来を見つめさせ、子ども自身の意思で進路を決定させる

進路を考えるにあたって大切なことは、子ども達一人一人が、最終的には『自分の意思と責任において、自分に最もふさわしい進路を選択し、決定したのだ』という自覚をもたせることです。

どんな進路を選択したとしても、決して楽な道のりばかりではないでしょう。厳しい試練にぶつかった時、それを乗り越える「前向きな力」は、「自分で決めた道だから」という裏付けがあってこそ生まれるものだと思います。

しかし、進路選択に際し、子ども達の不安な気持ちを未消化のまましていると、「将来のことなんかはわからない・・・」「今が楽しければいい・・・」「将来はどうにかなるさ・・・」「別にどうでもいい・・・」など、刹那的・短絡的な考えに流されがちになります。

それらを解消し、的確に進路を選択するためには、家庭でよく相談をしておくことが大切です。また、担任の先生は、ひとりひとりの性格や物事への取り組み方、そして将来を見通してアドバイスをしています。担任の先生ともコミュニケーションをとり、家庭での様子など様々な話をしてほしいものです。

● 子ども自身が自分を知り、子ども自身に合った進路を

就職するにも進学するにも、子どもが自分自身をあらゆる角度から見つめ、自分を客観的に知ることが大切です。その上で、自分の立場や置かれている環境を考えて、進路を決定していきます。単に9教科の評定で算出される「ランク」や、テストの点数だけで決定するではありません。

・子どもの能力や適性にあっているか

高校への進学は合格することがゴールではありません。合格しても、普通科であれば授業についていけない、職業科であれば実習授業でうまくいかないなど、自分の能力や適性に合っていないと楽しい高校生活を過ごすことが難しくなるかもしれません。そうすると、気持ちに余裕がなくなり、有意義な3年間を過ごすことはできないでしょう。多少厳しい状況の方が力を出せるタイプなのか、余裕のある方が輝くタイプなのか、やると決めたら最後までやり抜くタイプなのかも大切になってきます。

また、高校は中学校以上に「校風」というものに特徴があります。比較的自由な校風ではあるが授業は大変厳しい学校、生活指導は厳しいが授業はとても親身になって個別にもよく教えてくれる学校、スポーツや文化活動に特に力を入れ一人ひとりの個性を伸ばしていこうとする学校などさまざまです。子ども自身の性格や目指しているものとあっているかを考えて選択する必要があります。

・子どもの将来の目標と照らし合わせる

自分の将来について、目標や理想をもっているかどうかも大切なことです。高校は子どもの未来への通過点です。将来、どんな仕事につきたいのか、どんな生き方をしたいのかを考えさせ、それにふさわしい高校を選ぶことが大切です。

また、将来の「自分像」を見出せず、進学か就職かと思い悩んでいる子どももいます。そんな子どもには「進学」を勧めます。それは、上級学校に進学すると、教科の勉強以外にもいろいろと経験することでき、視野を広げることができるからです。友人と将来を語りあったり、部活動や生徒会活動を通じて自分を磨いていく中で、将来の「自分像」を発見できると思います。そのような「目的」をもって進路を考えることが大切なのです。高校はゴールではありません。長い人生のひとつの通過点なのです。

中学校においても、進路相談(懇談)は受験校決定一辺倒ではなく、将来の目標も視野に入れることが大切であると考えています。その高校への進学は、将来の目標に続く「何本かの道の一つ」と考えさせていくことが、子ども達の心理的な負担を軽くすると同時に、目標に向かって進むんだという意識をしっかりとさせることにつながります。

したがって、われわれ大人は『進路を見つめることは、自分の人生を真剣に考えることにほかならない』ということをお伝えしなければならないと考えます。そうすることで子ども達が、自分自身を厳しく見つめ、確固たる考えをもって行動できるようになるのだと思います。進路に向けての取り組みが、「どのような職業につきたいか。」「どのような生き方をしたいか。」「どのように社会と関わって生活していきたいか。」を考えられる機会になるように願っています。

高校進学を考えるにあたって

● 進学の目的をはっきりさせる

高校入学がゴールではありません。高校で何を学び、どのような経験を積んでいくのかはとても大切なことです。大学への進学を考えているのであれば、大学進学率の高い高校で質の高い学習をしたい、高校卒業後に就職を考えているのであれば、就職率が高く専門的な技能も身につけられる職業科の学校など、明確な目的がほしいところです。

● 子どもの能力や適性に合っているか

・合格できるのか

これが一番心配なところかも知れません。担任の先生とも十分にご相談ください。また、ぎりぎりのところで合格できたとしても、その中でやっていけるのかどうかということも考える必要があります。

・その高校は自分に合っているのか

「令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査(北海道)」によると、公立高校の中途退学者は、全体で1,051人(高校在籍者の1.2%)にのぼりました。内訳は、全日制が709人、定時制が202人、通信制が140人であり、その多くは1年生です。退学の理由は、「進路の変更」が57.5%、「学校生活・学業不適応」が30.1%の順となっています。これらのことは、進学に対する目的意識が不十分だったことが原因と考えられます。そうならないためにも進路を決定する前に、高校の説明会に参加したり、希望する高校の学習や生活の様子、生徒会活動や部活動、行事や校風などを調べ検討しておく必要があります。

● 通学方法はどうか

家を何時に出て、何時に学校について、何時に帰宅できるのか。バスやJR・地下鉄の便はどうか。部活動はできるのか。交通費の負担は大きくないか。どれも大きな問題です。実際に交通機関を利用して、高校まで行ってみることも大切です。

● 経費はどのくらいかかるのか

学校への納入金は、入学金や授業料のほかに、教科書代、制服代、交通費、実習費、修学旅行の積立金、部活動の用具・ユニフォーム代など、募集要項には記載されていないものも多くあります。経済的な準備も必要です。

道外の学校への進学を考えている生徒・保護者のみなさまへ

- ① 道外の学校への進学の可能性が出てきた段階で、担任の先生に申し出てください。道内の高校と受験日程が異なる場合がほとんどですので、家庭との連絡をしっかりと取りながら手続きを進めていきます。
- ② 受験を考えている高校の入試要項・出願書類などのお取り寄せは、各ご家庭にお願いいたします。公立であれば希望する高校を所管する教育委員会へ直接、私立であれば希望する高校へ、ご家庭から連絡をとり、入試要項や出願書類などを3部(家庭分・学校分・予備分)お取り寄せ、3部のうち1部(学校分)を、学級担任を通して進路係までご提出ください。
- ③ 北海道以外の公立高校を受験する場合に、北海道の公立高校に出願しないことの証明が必要な場合は、学級担任を通して進路係までご連絡ください(原則必要です)。このことに関する郵送料は、ご家庭の負担となります。また教育委員会とのやりとりがあるため、数日かかります。できるだけ早目にご連絡ください。
- ④ ご記入いただいた出願書類とともに中学校で作成した書類を、入試要項に従って、中学校から送付すべきであれば中学校から送付いたしますし、保護者が持参もしくは送付すべきであれば保護者にお渡ししますので、指定された方法でお手続きをお済ませください。
- ⑤ 入試要項をよくお読みいただき、入試や入学手続きなどにミスがないようにお気をつけください。中学校から、注意を促すこと等は行っておりません。

中学校卒業後の進路について

1. 進学

①公立高校

- ・道立高校の全日制普通科には学区の指定があります。札幌市は「石狩学区」です。
 - ・全日制で総合学科と専門教育を主とする学科は全道どここの学校も受検が可能です。
 - ・札幌市立高等学校の学区は「札幌市内全域」です。
- ※公立高校の入試は学力検査を受けるので、「受検」と表記します。

②私立高校

- ・私立高校には学区制はありませんので、どの高校も受験できます。
- ・複数(A・B)日程方式により、道内は2校まで一般受験が可能です。

③国立工業高等専門学校

- ・函館、苫小牧、旭川、釧路の4校あり、4高専の併願制度もあります。
- ・公立高校、私立高校との併願も可能です。

2. 就職

昨今の社会情勢の影響を受け、職業安定所などを通じての道内の求人は厳しい状況です。

3. その他

公立高校について

1 公立高校の特色

(1) 公立高校とは

北海道が設置している道立高等学校と、市町村が設置している市町村立高等学校があり、あわせて公立高校と言っています。入試日は統一されていて、入学試験問題も共通です。

(2) 学年制・単位制とは

① 全日制普通科単位制の特色

国語、数学など、教育を中心として、興味・関心や進路希望等に応じた多様な選択科目が開設されています。	少人数授業や習熟度別学習などにより、生徒の実態や進路希望等に応じたきめ細かな学習指導が可能です。	学年による教育課程の区分を設けず、3年間で決められた単位数を習得すれば卒業が認められます。
---	--	---

② 学年制と単位制の比較

	教育課程の区分	時間割	授業展開	卒業の認定
学年制	学年による教育課程の区分があり、進級が認められなければ原級留置(留年)になります。	学校で決めた時間割に従って授業を受けます。	同じ学年の生徒だけの授業です。	学年ごとに決められた単位数を習得した場合に進級の認定が行われ、3学年が修了した段階で卒業が認められます。
単位制	学年による教育課程の区分がないので、基本的に、原級留置(留年)はありません。	設定された科目から自分で選択して作った時間割により授業を受けます。	異なる年次の生徒と一緒に学ぶ授業もあります。	卒業までに決められた単位数を習得すれば卒業が認められます。

③ 札幌市内及び近郊の普通科単位制の公立高校

道立	札幌手稲・札幌白石・札幌白陵・北広島・大麻・札幌東陵・札幌英藍・有朋(定時制)
札幌市立	札幌旭丘・札幌清田・札幌藻岩・札幌大通(定時制)

(3) 普通科フィールド制

① 概要

平成20年度から始まった北海道独自の新しいシステムで、発展的な内容を扱った科目や、情報、福祉、環境などの科目のまとまりをフィールドとして複数設定し、進路希望等に応じて自分でフィールドを選択して学習します。

② 札幌市内及び近郊の普通科フィールド制の公立高校

札幌あすかぜ・札幌平岡	※2025(令和7)年度に普通科へ転換予定
-------------	-----------------------

(4) 総合学科

① 概要

将来の生き方や就きたい職業について、ガイダンスや体験的な学習などを通してじっくり考えながら学んでいき、望ましい勤労観・職業観を身に付けるとともに、各自で必要な科目を選択して進学や就職などの進路実現を目指します。

② 札幌市内及び近郊の総合学科の公立高校

石狩翔陽・札幌厚別・千歳北陽	※千歳北陽は2022年4月～総合学科に転科
----------------	-----------------------

(5)「アンビシャススクール」

①概要

生徒が自己の生き方を考えながら、「分かる喜び」を感じたり、「もっと学びたいという気持ち」を高めたりするため、学ぶ意欲に応える学習指導により、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度の育成に重点を置いた学校

②札幌市内及び近郊の「アンビシャススクール」の公立高校

野幌(普通科)・千歳北陽(総合学科)

(6)定時制

ほとんどが夜間定時制で、週当たり20単位時間の授業時数で勉強し、修業年限は4年ですが、昼間定時制や修業年限が3年の高校もあります。また、有朋高校や午前、午後、夜間の3つの部をもつ札幌大通高校には、修業年限が3年以上の単位制による定時制の課程が設置されています。

①札幌市内の定時制公立高校

道立	札幌東	札幌南	札幌月寒	札幌北	札幌西	札幌工業	札幌琴似工業	有朋
札幌市立	札幌大通							

(7)通信制

自学自習を基本とし、仕事などで疲れていても、机に向かう努力と実行力が大切です。卒業までにはたいへんな根気が必要です。有朋高校に設置されています。

①通信制の道内公立高校

有朋

(8)通学区域

全日制普通科の高校では、保護者の住所により通学区域が決まっています。札幌市は、道立高校だと石狩学区が通学区域となり、制限を受けずに受検できます。石狩学区以外の高校を受検する際は、学区外就学制限枠の受けることになります。

また、道立の全日制課程の専門学科、職業学科、総合学科、定時制課程及び通信制課程では、全道どの地域からも出願できます。

札幌市立の全日制の高校は、通学区域が札幌市全域となっています。(札幌啓北商業を含む)

2 公立高校入試について

(1)令和6(2023)年度 入試日程(現3年生の入試日程)

推薦入学面接日	令和6年2月13日(火)
学力検査日	令和6年3月5日(火)
追検査日	令和6年3月13日(水)
合格発表日	令和6年3月18日(月)

(2)全日制の一般選抜の可否の判定資料

①個人調査書に記載された内容

学習点の他に選択教科の評定や総合的な学習の記録、特別活動の記録などのさまざまな内容

②学力検査の成績

5教科各100点満点(英語の中には、聞き取りテストが30～35%程度含まれます)、合計500点満点。解答時間は各50分。一昨年(現在の高校2年生)より裁量問題・標準問題の区別がなくなり、現在の形になっています。なお高校の裁量で、傾斜配点(特定教科の得点を1.5～2倍する)を行うことができます。

③面接、実技を行った場合はその結果

④健康診断書

体育に関する学科への出願者のみ提出。

(3)全日制の一般選抜の方法

- ①募集人員の70%程度は、個人調査書の「各教科の評定」の記録と学力検査の成績を、同等に取り扱って選抜されます。
- ②募集人員の15%程度は、個人調査書の内容などを重視して選抜されます。
- ③募集人員の15%程度は、学力検査の結果を重視して選抜されます。

(4)定時制の一般選抜の合否の判定資料

- ①個人調査書に記載された内容
 - ②面接の結果 すべての定時制高校で面接が行われます。
- ※市立札幌大通高校は、学力検査と面接で合否が判定されます。

(5)入学選抜に用いられる学習点(内申点)について

学習点(内申点)とは、中学校3年間の学習成績を数量化したもので、中学校での各学年末の通知表の評定により算出されます。満点は、315点で、最低点は63点です。

①学習点の計算方法

$$\text{(学習点)} = (1\text{学年の学年末評定の合計}) \times 2 + (2\text{学年の学年末評定の合計}) \times 2 + (3\text{学年の学年末評定}) \times 3$$

※学年末評定が確定していない段階での「仮の学習点」の求め方

3年前期評定がまだの段階	1年の学年末評定の合計 $\times 2 + 2$ 年の学年末評定の合計 $\times 5 =$
3年学年末評定がまだの段階	1年の学年末評定の合計 $\times 2 + 2$ 年の学年末評定の合計 $\times 2 + 3$ 年の前期評定の合計 $\times 3 =$

②学習点とランクの関係について

一般的に、算出された学習点を満点から20点ごとにアルファベットで分類したものを「ランク」と呼んでいます。 ※「ランク」は、便宜的に使われる言葉です。

Aランク	315～296	Hランク	175～156
Bランク	295～276	Iランク	155～136
Cランク	275～256	Jランク	135～116
Dランク	255～236	Kランク	115～ 96
Eランク	235～216	Lランク	95～ 76
Fランク	215～196	Mランク	75～ 63
Gランク	195～176	×	×

※オール5＝315 オール4＝252 オール3＝189 オール2＝126 オール1＝63

(6)公立高校の入学選抜に用いられる学力点(当日点)について

国語、社会、数学、理科、英語の5教科。各教科100点満点で、合計500点満点。英語には、リスニング問題が含まれます。時間は、各教科とも50分です。高校の裁量で、傾斜配点(特定教科の得点を1.5～2倍する)を行えます。

①昨年度、札幌市内及び近郊で高校の裁量による傾斜配点に基づく学力点の満点の変更を行った高校

札幌北	普通科	数学・英語を各2.0倍
札幌国際情報高校	国際文化	英語を2.0倍
札幌啓成高校	理数科	数学・理科・英語を各1.5倍
千歳高校	国際教養科	英語を1.5倍
札幌旭丘高校	数理データサイエンス	数学・理科を2.0倍、英語を1.5倍
札幌清田高校	普通科グローバルコース	英語を2.0倍

(7) 学習点と学力点の相関図と合否の判定について

受検生の合否は、次にあるような相関図を用いて判定されます。○は合格、×は不合格、△は追加合格を示しています。図の○×△は、全日制普通科のA高校を受検したB中学校の生徒の合否の結果を示した例です。

①この相関図から分かること

- ①同じ学習点(ランク)でも、学力点(当日点)で合格、不合格の両方が存在する。
 ②学習点(ランク)が低いと、より高い学力点(当日点)をとらないと合格できない。

(例) 北海道札幌 X 高校の合否の分布

	段階	1	2	3	4	5	6	7	8	9
段階		500～ 481	480～ 461	460～ 441	440～ 421	420～ 401	400～ 381	380～ 361	360～ 341	340～ 321
A	315～296									
B	295～276								★	
C	275～256			○	○		○	○		×
D	255～236				○	○	○○ ○○	○○ △	×	×
E	235～216					○○	○○ △	×× ××	×	
F	215～196				☆		×	××		

②「合格最低ランク」「合格最低得点」などについて

塾や受験情報誌などで、「合格最低ランク」「合格最低得点」という言葉が使われていますが、上の図のように「合格最低ランク」のEランクで「合格最低得点」の380～361点の得点であれば、合格できないことがあります。

③複数尺度による合否判定

前述のように、募集人員の70％は、個人調査書の「各教科の評定」の記録と学力検査の成績を、同等に取り扱って選抜されますが、残りの30％は、個人調査書と学力検査の成績を同等ではなく、「個人調査書の内容などを重視」と「学力検査の結果を重視」に分けて、15％ずつ選抜します。

この制度によって、上の相関図の☆の受検生は、学習点(ランク)は不足していますが、当日の学力検査の結果＝学力点が重視され、合格する可能性があります。また、★の受検生も学力点(当日点)は不足していますが、個人調査書の内容＝学習点が重視され、合格する可能性があります。しかし、極めて高い学力点もしくは学習点が必要なため、注意が必要です。

(8) 推薦選抜について

一般選抜の他に、自己推薦選抜というものがあります。昨年度から、公立高校では、学校長推薦が必要なくなり、すべて自己推薦となりました。今春の入学選抜の手引きには、出願資格として、『出願先高等学校のスクール・ポリシーを理解し、自らを各学校が示す「入学者の受入れに関する方針」に合うと考えている者で、出願する動機及び理由が明確であるもの』(定時制では、さらに『自主的に学習できる強い意志を有するもの』が追加されていました)とありました。

①推薦選抜を実施する学科と入学枠(今春のものです。変更があるかもしれません。)

イ 全日制普通科(本来学区の高校に限り出願できる)

- ・札幌国際情報高校と単位制による普通科の高校では、必ず実施されます。
 その他の全日制普通科の高校では、高校の裁量で実施の有無を決めます。
- ・入学枠は、募集人員の10～40％程度の範囲内で、各高校が決定します。ただし、札幌市立高校の全日制普通科専門コースは、募集人員の50％程度です。

ロ 全日制のその他の学科

- ・専門教育を主とする学科(工業に関する学科、商業に関する学科など)や総合学科の高校では必ず実施されます。
- ・入学枠は、農業に関する学科と水産に関する学科では、募集人員の50～90%程度の範囲内で、各高校が決定します。その他の学科では、30～50%程度です。

ハ 定時制の高等学校

高校の裁量で実施の有無を決めます。入学枠は、募集定員の30%程度です。

②選抜方法 … 以下の資料を総合的に評価して合格内定者が決定されます。

- イ 出願者から提出された自己推薦書
- ロ 中学校長から提出された個人調査書、健康診断書
- ハ 面接の結果
- ニ 英語の聞き取りテスト、英語による問答、実技、作文などを実施した場合は、その結果

高等専門学校について(略称:高専)

1.出願できる学科と特色

(1)全国に国公立の高等専門学校があり、学区規制はありません。原則出願は1校だけです。ただし、道内4校による独自の併願制があります。

(2)特色

- ①5年間の一貫した教育により、高度の専門技術者を養成する高等教育機関で、短大と同じく「準学士」の称号が与えられます。
- ②工業高専は卒業後、さらに高度の教育を希望する者に対して高等専攻科(2年制)があり、技術科学大学(長岡・豊橋)や国公立大学工学部などへの編入も可能です。

(3)道内の高専・学科について

- 苫小牧工業高等専門学校・・・創造工学科(※2年生から5つの専門系に分かれます)
- 旭川工業高等専門学校・・・機械システム工学科・電気情報工学科・システム制御情報工学科・物質化学工学科
- 函館工業高等専門学校・・・生産システム工学科・物質環境工学科・社会基盤工学科
- 釧路工業高等専門学校・・・創造工学科(※2年生から3つの専門コースに分かれます)

2.選抜方法

(1)推薦による選抜

- ・学校長推薦のところと自己推薦のところがあり、推薦基準は高専によって異なります。道内4高専は、令和6年度入試より4校とも自己推薦となります。
- ・公立高校や私立高校との併願が可能です。ただし、合格したら入学することが前提になります。

(2)学力検査による選抜(一般の入試)

- ・全国統一日に、国社数理英の同一問題で実施されます。
- ・可否の判定は、学力検査・個人調査書・健康診断書等の総合判断によります。
- ・面接の実施は、各高専ごとに異なります。面接日が公立高校入試日と違うと併願も可能です。

(3)その他特記事項

- ・平成30年度入試より、道内4高専の併願が可能となっています。願書に4高専の学科を記入し、試験を受けますが、合格した高専に必ず行くことが条件となります。

私立高校について

高校の授業料の無償化により、公立高校との費用の格差が縮まったことにより、私立高校を第1志望とする生徒が増えています。公立高校とは違った独自の教育カリキュラムを作成し、進学実績を伸ばしていたり、部活動に力を入れるなど、各校とも特色のある教育を実践しています。昔のように、「私立は公立の滑り止め」の時代ではありません。私立高校も公立高校同様に真剣に考える必要があります。

(1) 出願できる高校

私立高校には男子校・女子校・男女共学校があります。公立高校と違い通学区域の規制はありませんので、全国どこの高校でも出願することができます。また、入試日が異なっていれば、複数の私立高校を受験することもできます。なお、道内の全日制私立高校の一般入試はA日程、B日程のどちらかで実施されることになっているので、最大2校受験することができます。また通信制私立高校は、各高校がそれぞれ入試日を設定しています。

資料 A日程もしくはB日程で一般選抜を行う札幌市内及び近郊の主な全日制私立高校

A 日 程	令和6年2月15日(木)	北海学園札幌 北海道科学大学 東海大学付属札幌 札幌静修 札幌北斗 札幌光星 札幌新陽 札幌創成 札幌山の手 札幌大谷 札幌日本大学
	令和6年2月15日(木)、16日(金)	北照 小樽明峰
B 日 程	令和6年2月20日(火)	北海 北星学園大学附属 立命館慶祥 札幌第一 とわの森三愛 札幌龍谷学園 北海道文教大学附属
	令和6年2月20日(火)、21日(水)	北星学園女子 小樽双葉

(2) 学科・コースについて

普通科以外の学科を設置している高校もありますが、ほとんどは普通科です。公立高校と違い、普通科の中にいくつかのコースを設けている学校が多くあります。高校卒業後の目標(進路)にあわせて、難関大学や国公立大学への進学を目指すコース、私立大学への進学を目指すコース、専門学校への進学や就職を目指すコースなどがあります。また、高校が異なると同じ名称のコースであっても、目標やカリキュラムが違う場合があります。

また、進学に力を入れているコースでは、学習時間を確保するために部活動が制限されている場合があります。最近は高大連携に力を入れている学校も増えています。入学後に知らなかったとならないように、説明会に参加したり、各高校のホームページなどでしっかりと調べておく必要があります。

(3) 受験について

① 推薦受験

ほとんどの私立高校で実施しています。人数や出願資格などは高校ごとに決めています。自己推薦の学校もありますが、多くは中学校長の推薦を必要としています。

② 一般受験

上記A日程・B日程での受験が一般受験です。一般受験の他にも、単願受験や専願受験を実施する高校もあります。

※1 単願受験と専願受験と推薦受験について

「単願」受験…希望する1つの学校のみに出願し受験するもので、他の高校は出願も受験もしない受験方法です。合格したら必ず入学することが条件です。

「専願」受験…希望する学校以外へも出願できますが、専願した学校に合格した場合、必ずその高校へ入学しなければならないという条件があります。

※単願受験・専願受験(・推薦受験)は、いずれも一般受験よりも出願期間が早く(冬休み中に手続きをします)、1月中旬から下旬にかけて試験が行われます。その分、合格発表も早く、1月末ごろにほとんどの学校で行われます。一部の高校では、一般受験と同じ日程でも単願受験を行うところがあります。

※冬休み中に出願するため、3年前期までの成績で受験することになります。

(4) 入学者の選抜

私立高校の入試は、各高校独自の選抜規準により実施されます。推薦受験では、個人調査書や推薦書などの書類及び面接の結果の他に、各高校の考えで学力検査や作文などを行い、それらの結果を総合的に評価して合格者が決定されます。一般受験では、個人調査書と学力検査(5教科または3教科、同じ高校でもコースによって異なる場合もあります)によって合格者が決定されます。面接を実施する高校もあり、その結果は非常に大きなウエイトを占めています。また、生活面も重要視され「学習成績はもちろん、まじめに努力する生徒を…」という傾向が見られます。そのため、「欠席日数」や「特別活動の記録」なども重視されます。

(5) 特典制度

ほとんどの私立高校には特待生の制度があります。中学校の学習点で決まるもの、入試得点で決まるもの、その他の条件で決まるものなどいろいろです。各高校により、条件や特典が細かく決められています。説明会や各校のHPなどで、事前に確認してください。

※北海道私立中学高等学校協会のHP (<http://www.doshigaku.jp/>) から道内の全日制私立高等学校各校や一部私立通信制高等学校のHPを見たり、各高等学校の校納金一覧(昨年度のもの)・就学支援(昨年度のもの)などの重要な情報を得ることができます。

(6) 私立通信制高校について

通信制は、原則高校から送られてくる教材をもとに学習し、レポートの作成とスクーリングを通して単位を取得し、進級・卒業するところです。各校ともに特色があり、学校によっては学習場所を確保し、そこに週何回か通学し、学習支援を受けられる所もあります。週5日通学する学校では、全日制の高校とほとんど変わらない高校生活を送れるところもあります。しかし、通学日数によって学費などの費用も変わるため、過去には合格後に費用の高さから入学を断念する残念な事例もあるそうです。しっかりとした確認が大切です。

また、近年人気が高まっており、進学者も増えてきています。各高校とも3～4回程度の受験機会を設けている場合が多いですが、募集定員に達した場合、予定された受験機会が実施されない場合もあります。早い学校では10月頃から出願を受け付けていたり、年内で定員に達するところもあります。そのため、早めの相談、判断が必要となる場合もあります。

資料 A日程・B日程と関係なく入試選抜を行う札幌市内および近郊の主な通信制私立高校

青森山田高等学校 飛鳥未来高等学校 飛鳥未来きずな高等学校 池上学院高等学校
N高等学校 NHK学園高等学校 鹿島朝日高等学校(札幌) 第一学院高等学校
クラーク記念国際高等学校(札幌) 札幌自由が丘学園三和高等学校 星槎国際高等学校
日本航空高等学校(千歳・札幌) ヒューマンキャンパス高等学校 北海道芸術高等学校
ルネサンス高校 など

※ 小樽双葉、酪農学園大学附属とわの森三愛、札幌静修にも設置されています。

就学支援金・奨学金(育英制度)について

(1) 就学支援金について

金銭的な理由で進学できない子供たちがいなくなるように、国や北海道が高校生への支援制度を設けています。いずれも高校入学後に案内があります。詳しくは、インターネットで検索してみてください、

①「高等学校等修学支援金」

年収約910万円未満の世帯が対象で、『全日制私立高校へ進学する場合、授業料を最大で年額39万6千円を上限に支給する』ものです。世帯構成や年収、校種(公立・通信制・高専など)により金額は変わってきますが、全国の約8割の生徒が利用しています。

②「高校生等奨学給付金」について

生活保護世帯、住民税非課税世帯を対象に授業料以外の教育費(教科書費、教材費、学用品費、通学用品費、教科外活動費、生徒会費、PTA会費、入学学用品費、修学旅行費等)を支援する制度です。世帯状況によって給付額は変わります。国公立高校も対象になります。

(2) 奨学金(育英制度)について

以下のような育英(奨学金)制度があります。

・北海道高等学校奨学金	・日本学生支援機構	・梅津奨学金
・札幌市奨学金	・札幌市特別奨学金	・交通遺児奨学金
・あしなが奨学金	・母子・父子福祉資金	・生活福祉基金
・北海道公立高等学校定時制課程及び通信制課程生徒学資金		

詳しくは、後日配布される「進路のしおり」をお読みください。奨学金制度によって、出願(申し込み)時期、金額、基準(家計の収入、成績)などに違いがあります。

奨学金には、返済の必要なもの(貸付型)と不要なもの(給付型)があります。また貸付型にも、無利子の貸付と有利子の貸付の両方があります。もし返済が必要な奨学金を利用する場合、返済の見通しをもって利用していただければと思います。

※申請時に、中学校を通すものと各家庭から申し込むものがあります。

※中学校に案内が来ないものもあります。

本校における学校長推薦について

(1) 本校の「学校長推薦」にかかわる校内推薦基準(2022年度/令和4年度)

人物面と学習面の両方について、学校長に学校推薦に値すると認められる生徒

(1) 人物面

- ① 生徒・保護者の考えが一致していて、その依頼に基づく推薦依頼であること。かつ、以下のイ・ロが事前に了解されていること。
 - イ 推薦委員会、学校長の審査判定によって初めて推薦決定となることが了解されていること。
 - ロ 推薦による出願で、合格内定とならなかった場合の進路選択の方針もあらかじめ決められていること。
- ② 進学先の上級学校での卒業までの在学見通しが確実であると見込まれること。
- ③ 生活・行動・授業態度などの面で問題がないこと。

※学校長により推薦者と認められた後に、生活・行動・授業態度などの面において問題行動が生じた場合は、推薦者の認定を取り消すこともありうる。
- ④ 特別活動、学級活動、校外活動等で頑張っていると認められること。
- ⑤ 私立高校や高等専門学校は、その学校が示す推薦基準に合致していると認められること。

(2) 学習面

- ① 高等専門学校 各高等専門学校から示された基準以上であること。
- ② 私立高等学校 各私立高校から示された基準以上であること。

進路にかかわる 1 年間の見通し

中学3年生となり、最上級生としての1年間が始まりました。進路とは『自分の進む路（みち）』のことで、進路を考えると、高校のことを考えるだけでなく、自分の将来について考えることです。これらの1年間は、「中学校卒業後の生き方」について真剣に考えていく1年間になります。まずは、この1年間の大まかな流れをつかんでおきましょう。

< 1 年間の流れ >

1 学期 → よい習慣を早めにつけ、意識をさらに高め、進路について真剣に考え始める時期です。

- * **朝**は早めに起床し、**時間**に余裕をもって行動できるようにする。
- * **提出物**という言葉に敏感になり、**期日**を**厳守**する習慣をつける。
- * **言葉遣い・礼儀・服装**にいつも気を配る。
- * **授業**に集中し、**家庭学習**を毎日続ける。時間の使い方を考え、家でも机に向かう習慣をつける。

- ・学力を高めようと思うならこの1学期がチャンスです！！ 早めのスタートを意識しましょう。
 - ・進路にかかわるいろいろな資料にも、積極的に目を通していきましょう。
 - ・自分の進みたい方向性について、選択肢をいくつか考えていきましょう。
 - ・家族や担任の先生にも相談にのっていただき、自分の考えを自分で伝えられるようにしましょう。
- ※「進路希望調査」は全部で4回行う予定です。自分の考えをしっかりと見つことが大事です！

夏休み～2 学期 → 自分の希望する進路を確定する時期です。

- ・いろいろな上級学校を調べ、進路について多くの知識をもちましょう。
→ 進路にかかわる資料は、隅々まで目を通していきましょう。
- 学校見学や説明会などにも、積極的に参加してみましょう。
- ・学力テストA・B・Cなどを通して、自分の実力を知る時期となります。
- ・家族や担任の先生ともよく話し合い、自分の希望を決定します。



3 学期 → 自信を持って、落ち着いて入試本番に臨む時期です。

- ・入試のための、重要な書類に慎重に記入します。提出日は厳守です！！
- ・試験の本番の日を迎えます。それまで自分が積み重ねてきたことに自信を持って、入試に挑んでください。

1 年間の大まかな流れはつかめたでしょうか。次ページの年間予定を確認して自分の年間計画を考えてみましょう。この1年間は新しいことも多く、不安を感じる人も少なくないと思います。早い時期に目標を設定し、努力を重ねていき、実力がついてくると、自信もつき、不安も少なくなっていくことでしょう。充実した1年間になることを心から願っています。

進路にかかわる提出物は期日厳守です！！

進路関係の書類は必ず提出期限を守ってください！ そのために、**日頃からどんな提出物でも締め切りを守ることを意識してください。**「提出は○月○日までです」という言葉に敏感になり、確実に準備をし、余裕をもって提出できるようにしましょう。

進路関係の書類（進路希望調査や学校見学の申し込み、願書など）は、すべて「**朝学活までに**」「**担任の先生に**」提出するのが原則ですので、一年間しっかりと意識してください。

進路に関する主な年間行事予定

※進路の日程は予定ですので、変更になる場合もあります。また、進路学活が随時行われます。

月	進路に関わる行事	主 な 内 容
4	オリエンテーション	・どのような心構えで進路を考えなければならないかを学習します。
5	教育相談週間 学年PTA集会	・5月9日(火)～ 担任の先生といろいろなことを相談しましょう ・保護者の方々へ、進路についての概要を説明します。
6	第1回進路希望調査 「進路のしおり」配付 高校見学会申込開始	・現時点での希望を調査し、担任の先生との相談の参考にします。 ・進路の情報が満載の冊子です。保護者の方にも読んでもらってください。 ・見学会、オープンスクール等、学校によって名称は異なりますが、高校を直に感じられる貴重な機会です。積極的に参加しましょう。
7	期末懇談	・7月13日(木)～ 1学期の生活のほかに、希望する進路についての話をします。進路の方向性を確認します。
8	夏休み	・自分を見つめ直し、進路についてじっくり考える期間です。
9	学力テストA 就職希望生徒相談 事業所見学 第2回進路希望調査	・9月13日(水) 全学年の総合範囲です。 ・9月から11月にかけて、就職希望の生徒を対象とした事業所や各種学校の見学会があります。 ・学力テストAを受けて、この時点での希望を調査し相談に入っていきます。
10	通知表配付 学力テストB 第3回進路希望調査	・前期までの自分の成績(ランク)を確認します。 ・10月12日(木) 全学年の総合範囲です。 ・前期成績と学力テストBを受けて、この時点での希望を調査し相談に入っていきます。
11	進路説明会(保護者向け) 学力テストC 進路用写真撮影 出願予定校調査(4回調査) 教育相談週間	・11月7日(火) 高校入試に関する事柄の説明をします。 ・11月8日(水) 全学年の総合範囲です。 ・願書などに貼る写真を撮影します。 ・教育相談、期末懇談に向けて、受験校の最終確認をします。 ・志望校を最終的に決定します。家庭でもしっかり話し合ってください。
12	就職希望生徒統一選考開始 期末懇談 願書下書き練習 手続き依頼書提出 1月受験生徒願書提出	・12月1日より、就職希望者の面接選考が始まります。 ・12月7日(木)～ 卒業後の進路についての最終確認をします。 ・受験する高校の願書の下書きをします。 ・手続き依頼書にそって、受験手続を進めていきます。 ・私立単願など受験時期が早い生徒は、2学期中に願書を提出します。
1	公立高校願書作成・提出 私立高校願書作成・提出 私立単願(専願・推薦)入試	・提出期限は厳守です。丁寧に、正確な文字で書きましょう。 ・私立高校の受験料は15000円前後かかります。 ・一般日程よりも早い時期の入試です。
2	公立推薦面接日 私立高校入学試験 私立高校合格発表	・2月13日(火) 面接試験等が行われます。 ・A日程(2月15、16日)、B日程(2月19、20日)の複数日程方式です。 ・2月下旬より3月上旬まで。発表日は高校によって違います。
3	公立高校学力検査 公立高校合格発表 2次募集出願・試験	・3月5日(火)、6日(水) 全道一斉の入試です。 ・3月18日(月) 入学の手続きは、家庭で忘れずに行います。 ・入学定員を下回った高校は第2次募集があります。